

いよいよ第11回ディベート甲子園の季節になりました。皆さん、これまで道州制や動物園廃止について、多角的に議論を検討し、試合に臨んでこられたことと思います。

さて、以前の論題充当性に関する講座に引き続き、議論構築の作法とその実践への応用方法に関して、新たな講座を始めさせて頂きます。今度のシリーズでは「プランとその周辺」、つまりプランに関する理論とその実践について、解説を行いたいと思います。

今回のテーマは「内因性と固有性」です。

●メリットの内因性、デメリットの固有性

ディベート甲子園のルール細則Dの3に、以下のような規定があります。

審判は、個々のメリットあるいはデメリットについて、以下の3点について検証を行い、大きさの判断を行います。

1) プランを導入しなければ、そのメリットあるいはデメリットは発生しないこと。

2) プランを導入すれば、そのメリットあるいはデメリットが発生すること。

このうち1)が、メリットについて内因性、デメリットについて固有性と呼ばれる概念です。ちなみに2)がメリット・デメリットの発生過程にあたります。

2)はともかく、なぜ1)がわざわざ細則で、検証すべきこととしてうたわれているのか。それにはれっきとした理由があります。

●「プランのある社会」と「プランのない社会」との選択

あるプランにはメリットとデメリットがあり、メリットがデメリットより大きければプランを採択し、そうでなければプランを採択しない、というのは普通の説明です。

見方を変えると、プランを採択することは「プランがある社会」を選択する

こと、プランを採択しないとは「プランのない社会」を選択するということを意味します。ディベートの審査員は、この二者択一を迫られているということになります。

であれば、その意思決定上、ポイントになるのは「プランのある社会とプランのない社会の差は何か?」という点です。ここから先は、事例を用いて考えてみましょう。

●「内因性」の事例：風邪を治すには?

A「風邪をひいたみたい。薬を飲まなきゃ」

B「今晚寝れば、治るんじゃない?」

「Aさんは薬を飲むべきである」という論題の下で、肯定側は、プランとして「風邪薬を飲む」、そのメリットとして「風邪が早く治る」を提示しました。

言うまでもなく、風邪を治すのに、風邪薬が有効であるとしても、それが唯一の方法ではありません。Bさんが言うとおりに「睡眠をとる」だけでも治ってしまうかもしれません。

だとすれば、プランを導入しなければ発生しないメリット（「本当のメリット」と呼ぶことにしましょう）は、「プランあり：風邪が一晩で治る」マイナス「プランなし：風邪が治る」の差分にあたります。ここでもし、寝るだけでも風邪が一晩で治ってしまうこと（←この点は、別途論証が必要です）が確かならば、その差分である本当のメリットはゼロとなり、プランを採択する意味がなくなるということは明らかです。

このような内因性の議論を踏まえますと、この「薬論題」における「風邪薬を飲むプラン」の「本当のメリット」は、プランを導入しなければ発生しなかったもの、つまり「風邪が早く治る」のうちの「早く」という点であったということが明らかになるのです。

蛇足になりますが、この場合、重要性の説明においても、「風邪が治ったこと」ではなく「風邪が<早く>治ったこと」の意義を説明・論証しないと肯定側は勝てませ

ん。ご注意ください。

●「プランのない社会」についての留意点

これまで述べてきた「プランのない社会」というオプションは、基本的に否定側の土俵だということはご理解頂けると思います。

ただし以下の点に、特に注意が必要です。カウンタープランが認められていない教室ディベートのルール下では、「プランのない社会」を「現状」として理解して頂いてかまいません。しかし厳密には、「(論題的)プランのない社会」とは、①現状、及び②カウンタープランの存在する社会を合わせたものを指すと考えられます。

ここで現状とは、「①論題の主体が通常実施していること・すでに実施を予定していることが行われる社会」、カウンタープランの存在する社会とは「②実施する予定はないものの、やろうと思えば論題の主体が【新たに】実施できることを行う社会」を指します。菓論題の事例で行けば、「夜寝ること」は①の範疇として考えられますが、「いつもはそのようなことはしないのに、神社に病氣回復を祈願に行くこと(←それが風邪の治癒に有効かどうかは、当然論証が必要です)」は、②の範疇、すなわちカウンタープランの領域に入ることです。

内因性の議論を否定側から始めようとする際には、「何か別の方法を【新たに始めれば】メリットは得られる」という議論は避けましょう(これはカウンタープランそのものになってしまう)。あくまで「通常実施していること・すでに実施を予定していること」によってでもメリットを得ることは可能である、と言う風に議論を進めてください。

●「固有性」の事例:ドライブで交通事故

C「マイカーでドライブ旅行すると、交通事故が怖いよね」

D「旅行に行かなくても、事故にあう時には街中でもあうよ」

デメリットに対する固有性も、メリットでの内因性と同じ構造を有しています。

「Dさんは、旅行すべきである」という論題の下で、肯定側はプランとして「マイ

カーで、温泉に行く」を提示し、そのデメリットとして否定側は「運転中に交通事故に遭うかもしれない」を提示したとします。

これも先の内因性のときの説明と同様に考えれば、プランを導入しなければ発生しない「本当のデメリット」は、「プランあり:旅行中のドライブで交通事故に遭遇するリスク」マイナス「プランなし:ドライブ旅行に行かないでいたときに、交通事故に遭遇するリスク」の差分になります。すなわち、プランに固有のデメリット、「本当のデメリット」とは、プランを導入しなければ発生しなかったデメリット、例えば「運転時間が長くなることや疲れて居眠りしやすくなること等によって、事故に<遭遇しやすくなる>」という点だということがわかります。

●まとめとお願い

端的に申せば、「内因性」「固有性」とは、「プランなしの社会」が持っているメリットやデメリットの発生可能性として理解できます。論題採択がプランのある社会とない社会(現状)との選択行為であることは、すでに述べました。これを踏まえて、今回の議論を整理しますと、いわゆるメリット・デメリットの比較の構造は、以下のようになります。

(A-B) - (C-D) > 0 なら肯定側

(A-B) - (C-D) ≤ 0 なら否定側

ただし、

A: プランがもたらすメリット

B: 現状がもたらすメリット(内因性)

C: プランがもたらすデメリット

D: 現状がもたらすデメリット(固有性)

最後をお願いします。内因性や固有性の議論をする際、「内因性・固有性がありません」で、スピーチを止めないで下さい。ジャッジが知りたいのはその先の話、つまり本当のメリットやデメリットの大きさなのです。内因性や固有性の議論によって、メリットやデメリットがどれほど小さくなったのか、あるいはゼロになったのか、試合の流れに即して、丁寧に説明して頂きたいと思います。

今回は、フィアットとプランの問題解決性について、解説する予定です。